

# 1. 調査結果概要表

作成日 平成20年 8 月15 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3650180320
法人名	医療法人 若草会
事業所名	グループホーム わかくさ
所在地	徳島県徳島市川内町小松西93番地 (電 話) 088-665-8602

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年8月7日

## 【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算 ユニット南 7人, ユニット東 6.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費
敷 金	有( 円)	有りの場合	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要( 7月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・村松病院 ・坂本歯科医院
---------	---------------

徳島県 グループホームわかくさ 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは木造平屋建てで静かな田園地帯にあり、高い天井の天窓から明るい光が降りそそいで明るい。居間のフロアには床暖房、畳のコーナーには掘りごたつがあり、利用者が落ち着いて生活できるよう工夫され、日中は施錠せず庭で自由にくつろぐ事もできる。ホームの理念に「一人一人の生活を大切に」を掲げ、理念に基づいた支援がなされている。両ユニットにはそれぞれ利用者でつくった自治会があり、共同生活で出てくる問題や要望等を話し合っている。出された課題については職員も一緒になって話し合い、利用者の意向にそった支援ができるよう考え、生活の質の向上に繋げている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題である「重要事項説明書・契約書への権利・義務の明記」、「市町村との連携」について全て改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価の意義や目的を理解して取り組み、サービスの質の向上につなげるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は利用者・利用者家族・地域包括支援センター・地区民生委員・地元代表(ボランティア)・法人の介護支援専門員・ホーム管理者・介護計画担当で構成され、2ヶ月に1回開催されている。ホームからは利用状況や活動内容、年間事業計画などを報告し、参加者からは地域の情報や提案などが出されている。出された意見はホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に意見を聴き、話し合っている。家族会の時には職員が席を外し家族同士が自由に話し合える時間をつくっている。出された意見・要望に対してはできる限り実現するように努めている。意見箱も設置され、第三者苦情申立て窓口の掲示もされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日々の散歩時の挨拶を大切にし、地域の祭りや運動会などに参加している。夏休みにはホームの広場を地域に提供し、子供たちや地域の方達と一緒にラジオ体操を行っている。年末には地域ボランティアの力を借りて餅つきを行っている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の生活を大切に」を理念として、地域住民との交流を大切にし、地域住民の中の一員として支援するという事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時や毎日のミーティングで理念を確認して全員で共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の散歩時の挨拶を大切にし、地域の祭りや運動会などに参加している。夏休みにはホームの広場を地域に提供し、子どもたちや地域の方達と一緒にラジオ体操を行っている。年末には地域ボランティアの力を借りて餅つきを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義や目的を理解して取り組み、サービスの質の向上につなげるよう努めている。前回評価での課題はすべて改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者・利用者家族・地域包括支援センター・地区民生委員・地元代表(ボランティア)・法人の介護支援専門員・ホーム管理者・介護計画担当者で構成され、2ヶ月に1回開催されている。ホームからは利用状況や活動内容、年間事業計画などを報告し、参加者からは地域の情報や提案などが出されている。出された意見はホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の活動報告書と共に行事予定も記載されたミニ広報紙(ホームだより)を届け、いろいろな情報や助言をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行されるミニ広報(ホーム便り)には利用者の生活状況を伝えると共に、月間の行事計画も書かれている。介護計画の見直し予定日も記入されている。金銭出納についても記録が残され、家族の確認印ももらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時には意見が出しやすいように職員が席を外す時間を設けている。家族会での家族同士の話し合いで出た意見は運営に反映させている。意見箱の設置もあり、第三者苦情申立て窓口も掲示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者との馴染みの関係を大切にし、異動は最小限に留めている。新しく異動してきた職員は馴染みの関係ができるまで夜勤に入らないなど、利用者への影響が出ないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間行事計画の中に研修計画も組み込まれており、研修を受ける機会の確保に努めている。外部研修に参加した職員は復命書を提出し、伝達講習をして職員全員で共有できる組織づくりができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と連絡を取り合い、ホームの見学や相互実習などを行い、意見交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族に見学に来てもらったり、職員も訪問するなど日常生活状況を事前に理解してもらっている。入居後は担当職員と一緒に一時帰宅するなどホームでの生活に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「介護する人される人の関係ではなく、ひとりの人として関わる。」を基本姿勢としている。職員は利用者に人生の先輩として接し、喜怒哀楽を共有して共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時には利用者も参加し、できる限り希望される生活実現に向けて努力している。各ユニットには自治会があり、検討された事柄については利用者と一緒に希望の実現に向けできる限りの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望、本人の現状を的確に把握し、利用者・家族・関係者が意見を出し合い、本人の希望する生活ができることを第一に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しには家族も参加し、実行状況や効果を確認し評価をしている。状況が変化した時や本人・家族から要望のあった時は適宜見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や事情に応じて、受診やリハビリ等の通院や個別の外出支援等、個々の利用者の希望にそった支援がされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には入居後も定期的、また状態にあわせて随時受診支援している。体調変化のあった時には家族にも同行してもらい診察の結果を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応方針、看取り看護・介護については文書化して家族に十分説明され、同意を得ている。全職員も看取りについて方針の共有ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は人生の先輩としてプライバシーに配慮した支援がなされている。入居時に「個人情報利用に関する申出書」を作成している。ホーム内での名前・写真の掲示は全利用者が同意されており、居室入り口に表札・居間や廊下には写真が飾られ、いきいきとした生活状況が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援ができています。各ユニットには自治会があり、そこから出された要望にも職員はできる限りの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と夕食の献立は法人の管理栄養士が作成している。昼食は利用者と相談してメニューを決め食材も調達し、職員と一緒に作っている。また、月1回「ご馳走の日」があり、その日は家族も食事作りから参加され一緒に昼食を楽しんでいる。毎日のおやつは手作りである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後3時から8時までとなっているが、利用者の希望にそった支援がなされている。東ユニットでは自治会で入浴の順番を決めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に応じて日常生活の中での役割分担がある。また、手芸・書道・詩吟・俳句等のクラブ活動・勉強会など変化のある毎日の生活を支援している。外出支援も利用者の希望を聞きながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・お墓参り等の日常の外出支援は個別、または少人数で行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を十分に理解しており、自由に入出入りできる開放的な環境づくりができています。外に出られるときには見守りながら同行し、さりげなく声かけをして落ち着かれ納得されてからホームに戻って来る等利用者の心に寄りそった支援をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震・台風等災害対策マニュアルはできています。避難訓練や消火器の使い方は利用者も一緒に年4回実施している。また、ビデオを使って消火活動の勉強会も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎日チェックされ、記録されている。慢性疾患のある利用者については医師の指示を受け、母体の管理栄養士と相談しながら必要な支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓があり明るく、床暖房も設置されている。一段高くなった空間には畳が敷かれ掘りごたつもある。壁には手作りの作品や写真が飾られ思い思いにくつろげる空間づくりができています。対面式の調理台では職員と一緒に利用者の方が盛り付けや配膳ができるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	人形や編み物を置いている人、ご主人の位牌を祭っている人など、一人ひとりが尊重され居心地よく過ごせるよう居室づくりができています。		